

.....
本会記事

粉体粉末冶金協会分科会・委員会活動について

当協会分科会の始まりは、昭和29年に粉末冶金研究会の中に軸受分科会（松川達夫委員長）、機械部品分科会（若林章治委員長）が発足し、翌年に試験測定法分科会（小川和彦・鹿取一男委員長）が追加された。その後、昭和33年の粉末冶金技術協会設立時に前述の3つの分科会に磁性材料分科会（武井武委員長）、超微粉体分科会（岩瀬慶三委員長）が加えられ、5つの分科会となった。協会誌「粉体および粉末冶金」第5巻第1号に分科会記事と研究報告が掲載されているが、分科会のねらいは「最近急速に発展、注目されて来た粉末冶金の、基盤をしっかりさせるために、学術的にこれらの問題を取り上げるとともに、技術的な面を育成するため、会員共同研究の場を持つにある。」と記されている。まさに分科会活動が当会設立の中心的、かつ重要な活動であり、同号に記された分科会の運営や議事録、詳細な研究報告を読むと、当時設立に携われた研究者の気運の高まりが感じられる。

この5つの分科会は、時代のニーズ、また、当会の活動範囲に併せて、新設や統廃合が行われた。中でも昭和63年に分科会の大規模改革が行われ、焼結基礎、超硬合金、磁性材料、新機能材料、合成基礎、高強度材料の分科会に加え、当時話題の超伝導材料、人工格子材料など8分科会21委員会が設けられた。従来、研究会や粉体セミナー、粉末冶金入門講座の開催などが分科会活動として行われていたが、この大規模改革の頃より春秋大会での講演特集の企画・運営が活動の中に加えられた。当時ブームであった酸化物系超伝導材料の講演特集では、事前の講演申込に加え、当日申込みによる発表を受けけるという非常にアクティブな大会運営が行われた。この頃より講演特集の企画、協会誌特集号への論文掲載が分科会・委員会ならびに当会活動の中心を成していった。その後も新しいテーマに取り組む分科会・委員会が設置され、平成8年に自動車焼結部品分科会が、また、平成26年に粉末積層3D造形委員会が粉末成形分科会に新設され、研究会等活発な活動が現在も行われている。

分科会・委員会の活動形式は、発足当初より現在に至って、オープンとクローズの2形式が取られている。クローズといえども会員の方は皆さん参加の権利があり、どなたでも参加頂ける。クローズの形態をとっている分科会・委員会の中には、技術上のノウハウ的な問題を焦点とし取り上げているところもあり、春秋大会の研究発表では得られない情報交換を行うために、委員登録制をとり、Give and Take で情報交換を行っている委員会もあるが、研究会など広く周知し、どなたでも参加頂けるオープン形態の委員会など、それぞれの委員会に合った方法で活動が行われている。

一般分科会に関するアンケート調査を行ったが、会員の中には、分科会・委員会活動をご存知ない方もおられ、また、活動は知っているが、どのようにすれば参加できるかがわからないなどの声を頂いた。まだまだ情報発信が足りない部分があり、今後会員の方々に分科会活動に参加して頂く機会を作ることが事務局の責務と感じている。

（井上 羊子）

分科会組織の変遷

